

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あみぶらす		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		令和8年 2月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		令和8年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な環境整備と清潔感	利用児童がのびのびと活動できるよう、十分なスペースを確保し、常に清潔で心地よい環境づくりを徹底しています。特に、個別のニーズに応じた場所の提供や、視覚的に分かりやすい構造化を意識し、安全で快適な環境を提供しています。	自己評価で指摘のあった「段差がある箇所」については、スロープの設置や注意喚起の表示を行うなど、より安全性を高めるための物理的環境の改善を検討します。これにより、すべての利用児童が安心して活動できるユニバーサルデザインの実現を目指します。
2	支援プログラムの理解と共感的支援	職員一人ひとりが児童に対して共感的な態度で接することを心がけ、個々の特性やニーズに基づいた個別支援計画を作成・実施しています。これにより、児童一人ひとりの成長と発達をきめ細やかにサポートしています。	支援の質をさらに向上させるため、定期的なケース会議や外部研修への参加を促進し、最新の支援技術や知識を共有する体制を強化します。これにより、職員の専門性を高め、より質の高い支援を提供できるよう努めます。
3	丁寧な説明と合意形成	契約時や計画作成時に、運営規程や支援内容を分かりやすく丁寧に説明し、保護者の意向を十分に確認した上で同意を得るプロセスを大切にしています。これにより、保護者との信頼関係を構築し、協働して児童の成長を支える体制を整えています。	日々の連絡帳や面談に加え、ICTツールの活用等も検討し、よりタイムリーかつ多角的な情報共有ができるよう努めます。これにより、保護者とのコミュニケーションをさらに密にし、支援の透明性を高めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流・社会参加の機会	感染症対策を優先した結果、地域住民や他施設との直接的な交流を控えていたことが主な要因として考えられます。また、事業所が実施している地域交流に関する具体的な活動内容が保護者に十分に伝わっていない面もありました。	感染状況を注視しつつ、屋外での活動や少人数での地域行事への参加を段階的に再開します。また、地域交流の様子を写真付きの広報誌やウェブサイト等で積極的に発信し、活動の可視化を図ることで、保護者や地域住民への理解を深めます。
2	家族支援プログラムの実施	家族支援の必要性は認識しているものの、具体的なプログラムの周知や、保護者のニーズに合わせた開催時間の調整が不十分であったと考えられます。これにより、保護者がプログラムに参加しにくい状況が生じていた可能性があります。	アンケート等を通じて保護者が関心のあるテーマを把握し、オンラインでの開催や資料配布による情報提供など、参加しやすい形態での家族支援プログラムを企画・実施します。これにより、より多くの保護者が支援を受けられる機会を創出します。
3	保護者同士の交流機会の提供	感染症対策により、集団で集まる機会を設けることが困難であったことが影響しています。また、保護者それぞれの生活スタイルが多様化しており、一律の開催が難しい現状があります。	運動会などの行事において、感染対策を講じた上で保護者同士が自然に交流できる時間を設けます。また、SNSや掲示板等を活用した、非対面での情報交換の場を提供することも検討し、保護者間の情報共有や交流を促進します。